

「楽しい！」を広げる活動を

J A 越後おぢや女性部は3月26日（木）、令和2年度の活動計画を明らかにしました。

令和2年度は「豊かな食・農・くらし・環境を次代につなぐ」を活動のテーマとしました。また、活動に積極的に参加・参画し「楽しい！」を広げる取り組みに力を入れていきます。

食への取り組みとしては「みんなのよい食プロジェクト」の実践を進めていき、J A フェスティバル、支店ふれあい感謝祭、農林まつり等のイベントを通じて食への関心と米・米粉をPRしていきます。

また、部員の拡大を課題に挙げ、一人ひとりが「声かけ」を行い、仲間の輪を広げていきます。

昨年は初めて女性部運動会を開き、部員同士の交流を深めました。女性部の大形厚子部長は「昨年は、運動会や地域のボランティア活動など充実した取り組みができた。今年も女性部のパワー溢れる活動で地域を盛り上げていきたい」と話しました。



▲昨年度の主な活動の様子
運動会、農林まつり、お正月飾り教室

活発な活動を展開

J A 越後おぢや青年部はグリーンパークで3月30日（月）、通常総会を開きました。

盟友とJ A 関係者が参加し、令和元年度活動報告や収支決算、令和2年度活動計画などを協議し、承認しました。役員改選も行い、新部長に吉谷支部の金子光浩さん、副部長に坪野支部の本田恭一さん、監事に山新田支部の細金幸さん、三仏生支部長に和田宏志さんが選任されました。新部長の金子光浩さんは「支部間のコミュニケーションを深めて活発な活動を展開していきたい」と意気込みを話しました。



▲J A 青年組織綱領を唱和する青年部員



▲新役員に選出された4名
左から金子さん、和田さん、細金さん、本田さん

決意を新たに

4月1日（水）当JA本店で、令和2年度新入職員辞令交付式を行いました。

谷口熊一組合長は新たにJA職員として採用された6人に一人ずつ辞令を手渡しました。

谷口熊一組合長は「まずは元氣よく挨拶をし、組合員と向き合うことが大切だ。JAは総合事業であり縦横の連携を深めて精一杯がんばってほしい」と激励しました。

新入職員を代表して金融共済部共済普及課配属の渡邊実希が「信頼される職員を目指して、探究心を持って前進していきたい」と決意を表明しました。

新入職員は、5日間の研修の後に、各部署に配属されました。



▲谷口組合長より辞令を受け取る新入職員

適切な水管理を

小千谷市水稻集団栽培推進協議会は4月1日（水）、グリーンパークで総会を開きました。

各組織の代表やJA関係者が参加し、令和元年度事業報告と令和2年度事業計画などを承認しました。

協議会の篠田実会長は「昨年は高温障害により1等米比率が低下するなど厳しい年であった。今年は記録的な少雪で水不足が懸念されるので、適切な水管理が重要だ」と呼び掛けました。

同協議会は各生産組合で組織され、機械体系を通じて水稻集団栽培と共同利用施設における高度利用体系の確立を目的に設立しました。令和2年度は役員改正を行い、新会長に同市千田地区育苗組合の渡辺薫さんを選出しました。

6月には肥料メーカーを招き、水稻中間管理についての研修会を開く予定です。



▲適切な水管理を呼び掛ける篠田会長

きれいな街づくり

4月4日(土) 当JA全支店は、地域貢献活動として、小千谷市内で、今年1回目の歩道の空き缶拾いを行いました。支店協同活動の一環で、支店職員49人が参加しました。

職員は2人1組のペアで、ごみ袋を片手に、空き缶やペットボトルなどのごみを拾い集めました。この日に掃除した歩道の総延長は63キロほどで、ごみ袋34袋分に達しました。

この活動は平成25年から年2回取り組んでいて、今年で8年目です。総務部企画管理課の小川友菜は「タバコやペットボトル、空き缶などが捨てられていた。注意して歩くと民家の無いところに多くのゴミが落ちていることに驚いた。この活動がきれいな街づくりに繋がると嬉しい」と話した。次回は11月に行う予定です。



▲歩道に落ちているごみを拾い集めるJA職員

農業の大切さを次世代へ

当JAは4月13日(月)、小千谷市内の小學生に農業への理解を深めてもらおうと、小学校高学年向けの補助教材約320冊と小学校新1年生にJAオリジナルノート(連絡帳・自由帳)約500冊を同市教育委員会を通じて市内の各小学校に寄贈しました。

寄贈は、JAバンクアグリサポート事業の取り組みの一つの食農教育応援事業によるものです。贈った教材は、「農業とわたしたちの暮らし」の児童用と教師用の一式。JAオリジナルノートはJA広報研究会が研究・活動の一環として作成しました。

同市健康・こどもプラザあすこるで行われた贈呈式では、JAの谷口熊一組合長が、松井周之輔教育長に補助教材の目録、JAオリジナルノート、10万円分の図書カードを手渡しました。

谷口熊一組合長は「新型」コロナウイルスにより農業への影響が懸念される。教材の活用で食について考え、国内農業の大切さを次世代につなぐための教育となれば嬉しい」と話しました。

松井周之輔教育長は「農業の勉強をするいい機会になっている。新たに1年生向けに連絡帳、自由帳をいただき感謝している」と話しました。



▲補助教材を手にする谷口組合長(左)と松井教育長(右)

「おぢや産」にいがた和牛

当JA管内の肉牛肥育農家で組織する「小千谷肉牛部会」は4月14日(火)、肥育牛を東京都の東京食肉市場へ出荷しました。今回出荷した肥育牛は9頭で総重量は6トンを超えます。検査に合格した肥育牛は枝肉となり、4月17日(金)に格付けされました。

同部会では「ゴールデンウィーク牛肉消費拡大運動」として部会員自らが牛肉を販売します。約150キの「おぢや産」にいがた和牛の消費拡大を図ります。

格付けされた枝肉は主に関東で「にいがた和牛」として消費されます。

次回は11月に東京食肉市場へ上場する予定です。



▲肥育牛を出荷する部会員

健康情報ひろば

乳がんの早期発見・治療のために
人間ドックのオプション検査
乳腺超音波検査について②

JA新潟厚生連 小千谷総合病院
検査科 竹部和紗

乳腺超音波検査につきましては、前回と重なる箇所もありますが、少し詳しくお伝えします。

日本人女性の乳がん患者は急増しています。

50年前、50人に1人だった乳がんの割合は現在、11人に1人となり、がんにかかる女性全体の中で、乳がんは胃がんを抜いて1位となりました。他のがんに比べ、30歳代から増加し、40歳代後半と60歳代前半が特に多いとされています。

乳がんの怖いところは、乳房の中にある乳腺で発生したがん細胞がどんどん増殖をして乳腺から外の組織に広がります。そして、血管やリンパ管に入り、全身の組織や臓器に転移していきます。

症状としては、無症状の場合もありますが、しこりを感じる場合、乳頭から出血する場合、進行に伴って乳房の痛みや皮膚が変色するなど様々な症状があります。

乳がんは早期発見・治療により、約90%の方が治ると言われ、女性にとって乳がん検診を受けることはとても重要です。

現在、乳がん検診にはマンモグラフィ検査と乳腺超音波検査の2種類があります。

マンモグラフィ検査は検診で広く行

われている乳房専用のレントゲン検査です。

圧迫板とよばれる透明なアクリルの板で乳房をさみ薄く伸ばして撮影します。乳房の組織、病変や石灰化をより鮮明に映し出すために、乳房を平らにして圧迫しなければなりません。個人差はありますが、多少の痛みを伴います。

乳がんは進行していくと、古いがん細胞にカルシウムが蓄積する石灰化を生じます。石灰化Ⅱがんではありませんが、マンモグラフィは石灰化の検出に優れています。

一方、乳腺超音波検査は皮膚にゼリーを塗り、超音波を発生するプローブを使って、様々な角度から乳房の内部をリアルタイムに観察する検査です。

手で触れただけでは判別しにくい小さなしこりや病変を見つけることが出来ます。

痛みもほぼ伴わずまた、妊娠中や授乳中の方でも安心して受けられます。

しかし、微細な石灰化は見つけにくい欠点があります。

このように、二つの検査にはそれぞれ特徴があります。早期にがんを見つけるためにも、両方の検査を一緒に受けて頂くことをお勧め致します。

当院では4月15日より人間ドックのオプションとして、乳腺超音波検査がスタートします。1日5〜6人、検査時間10〜15分料金3,080円(マンモグラフィ検査は4,730円)です。

乳腺超音波検査は、訓練を重ね精通した女性の臨床検査技師が担当します。

大切な命を守るため、早期発見治療に繋がる乳がん検診を多くの方に安心して受けていただきたいと思えます。